

やましたの「^{いっさつ}今月の逸冊」

僕が本を読む理由は、考え方・価値観を広げるため。自分の知識や知恵なんてちっぽけなものだ。広げるためには、ある程度情報のインプットが必要だ。それには本が一番投資対効果が高い。たかが1500円程度の投資で、10数倍の価値を得ることがある。それはお金だけではなく、これからの生き方として、人生の糧となる。だから僕は今日も本を読む。



職業としての小説家
村上春樹

職業としての小説家 / 村上 春樹 (著) ¥1,944-

-Amazonより内容紹介-

いま、世界が渴望する稀有な作家——村上春樹が考える、すべてのテーマが、ここにある。自伝的なエピソードも豊かに、待望の長編エッセイが、遂に発刊！「MONKEY」大好評連載の<村上春樹私的講演録>に、大幅な書き下ろし150枚を加え、読書界待望の渾身の一冊、ついに発刊！

◎職業人は誰しもが読むべきだ！

職業小説家で食べている人は、ほんの一握りなのだろう。それも数十年と続けている人はごくわずか。。。この本を読むと、自分の仕事に対する心の強さを考えさせられます。。。では、面白かったところを一つご紹介。

『もしあなたが何かを自由に表現したいと望んでいるなら、「自分が何を求めているか？」というよりはむしろ「何かを求めている自分とはそもそもどんなものか？」ということ、そのような姿を、頭のなかでヴィジュアルライズしてみるといいかもしれません。』

これは逆説的ですが、面白いものの見方ですね。起業本には、「自分は何がやりたいか？」「何が好きか？」「何が今までやってきた中で喜ばれたか？」など、**自分に“ある”ものを探そうとしま**ず。しかし、そんなもの大して無いんですよ。。。。

そこで村上さんは、「何かを求めている自分」を考えると、と言っています。理由は、『何を求めているか？』という問題を正面から向き合うと、話が重くなり、自由さが無くなる。だから自由さを出すために、求めている自分を出せば、蝶のようにふわふわ自由な発想が出る』と言っています。深すぎて、分かりませんね（笑）

そこで分かりやすい例えが、起業前に読んだ本で、**「やりたくないことリストを作る」**というワークがありました。この村上さんの表現と似ていますね(^_^) やりたいことは、たくさんあるけど具体的ではなく、中途半端で漠然としないものが多いです。しかし、**自分が『コレはやりたくない！』ってことは、結構ハッキリしていませんか？**例えば、「好きな食べものを挙げて」と言われると考えるけど、「嫌いな食べ物は？」と聞かれれば、すぐ思いつきますよね！人間は、選択肢が多くなると、悩んでしまって決められない生き物ですからね。

僕自身もサラリーマン時代に、このリストを作っていっぱい書き出しました。そこでふと見なおしてみると、すべてではありませんが、やりたくないことはほとんどやっていません(^_^)v このように、何かをプラスするのではなく、何かを省くという考えからスタートするのは悪くありません。よく言いますよね。ダイヤモンドは磨けば、磨くほど美しく光ると(^O^)/